

2014年6月29日

ブライアン・ブルエット牧師

## ピリピ人への手紙：喜びの青写真 #2

OICへようこそ。お越しくださり、ありがとうございます。今私たちは、使徒パウロがピリピの教会に宛てて書いた手紙をともに学んでいます。この手紙は紀元62年に書かれ、二代目クリスチャンが読み手だった可能性があります。パウロには、自らが開拓したこの教会での多くの思い出がありました。この手紙に一貫するテーマは喜びです。1章は、苦しみの中にある喜びについて書かれています。パウロは獄中にいました。先週学んだ1-8節で、出会った当初からピリピの信徒に対して持っていた愛情についてパウロは語りました。今日の聖書箇所はピリピ1:9-11です。

### ピリピ 1:9-11

1:9 私は祈っています。あなたがたの愛が真の知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、1:10 あなたがたが、真にすぐれたものを見分けることができるようになりますように。またあなたがたが、キリストの日には純真で非難されるところがなく、1:11 イエス・キリストによって与えられる義の実に満たされている者となり、神の御栄えと誉れが現われますように。

「もっと安定した歩みのできる成熟したクリスチャンになりたい」と思ったことがありますか。それなら、パウロが書いたこのみことばを実践しましょう。今日の聖書箇所は、イエスともっと親しく歩みたい、信徒同士でもっとつながりたいと思うすべての人に向けられた言葉です。想像してみてください。祈り会に行くと、特別ゲストが来ていました。なんと使徒パウロです。祈り会の司会者が参加者に祈りの課題をそれぞれ挙げてくださいと言います。そこに挙げられた内容は、健康問題や仕事関係、家庭内の問題など、日常的なものばかりです。すると、部屋の片隅で使徒パウロが手を挙げてこう言います。「キリストの愛をもっと示す方法をみんなが知るように祈ってはどうでしょう。それと、教会全員がまあまあのできに満足することなく、すべてにおいて優れたものを目指すよう祈りませんか。」そしてこう付け加えました。「もうひとつ、私たち全員がイエスとつながることによって得られる義の実に満たされるよう祈りましょう。」パウロはそのグループの信仰が成長することを願っているようです。ここOICにいる皆さんにお伺いします。神は私たちのうちにどんなことを成したいと願っておられるのでしょうか。パウロの言葉の中に、ふたつのことが示されています。今日はそれらを見ていきましょう。今日のみことばから、健全な信仰に欠かせないものを見出すことができるはずです。パウロがおもに語るのは、偽りない信仰の特徴やクリスチャン人生を形成する要素です。これらは、クリスチャンなら誰もが追い求めるべきものです。

### 祈り #1 愛がさらに増し加わるように

#### ピリピ 1:9a

1:9 私は祈っています。あなたがたの愛が・・・いよいよ豊かになり、

私たち教会が育み、互いに示すべき愛はどのようなものかについて、パウロは語ります。愛は選択です。単なる感情ではありません。意志をもって愛することを決断しなければならないのです。この個所に注目してください。愛は減るのではなく増し加わるべきものだと言います。人を愛する力が増すというだけでなく、愛を注ぐ対象も増えるべきだというわけです。つまり、愛しにくい人たちにも手を差し伸べる必要があるということです。誰にでも、とくに親しい友だちがいるでしょう。その友人たちといっしょにいとアガペの愛を感じられるように思います。けれども、親しい友人たちの間で暗黙のルールが存在するようになり、それにそぐわない人は歓迎されなくなります。たいていの人は、突飛な言動をする人と関わり

たがらないので、このような人たちは輪に入れてもらえないことがあります。親しい人たちだけで過ごす安心感が高ければ、その分、自分たちの周りに建てる壁も高くなってしまいがちです。自分たちの内輪で、他の人について「あの人と仲良くするのはムリだ」などと言い始めたら、壁の高い小さな輪がそこに存在する証拠です。パウロは、私たちが愛の心を持つようにと願います。これを実現するのは簡単ではありませんが、神の御霊に導いていただくなら可能です。内輪の人とばかりいて、それ以外の人と関わらないままではられません。私たちがクリスチャンとして成長すると、愛する力も対象も増すはずで

ルカ 10:27 b

『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』

私たちの隣人とは誰でしょう。ルカの箇所続きを読めば、それがすべての人を指すことが分かります。愛する対象を選び好みすることはできません。

## 祈り#2 知識と識別力がさらに増し加わるように

ピリピ 1:9b,10a

真の知識とあらゆる識別力によって、・・・ 1:10 あなたがたが、真にすぐれたものを見分けることができるようになりますように。

私たちが迫られる選択は、良いものと良くないものとの間の選択のみではありません。善と悪とのどちらかを選ぶという選択なら、大人のクリスチャンなら答えは容易にわかるでしょう。私たちには聖霊が与えられており、良心の門番として、善と悪を見分けるのを助けてくださいます。また、神のみことばが私たちの足元を照らして行くべき方向を教えてください。良いものと最善のものとの間で選択を迫られる場合もあります。真の識別力は、最善が何かを見分け、勇気を持ってそれを選べるようにしてくれます。こういったことがクリスチャンとしての成長に役立つことがお分かりでしょうか。のほほんとして日常を過ごし、正しい選択をしていないせいで、霊的成長が止まった状態に陥ることがあります。この状態を、機内アナウンスをする飛行機のパイロットに例えることができます。「良い知らせと悪い知らせがあります。まず悪い知らせは、すべての計器が故障し、現在位置がまったくわかりません。良い知らせは、エンジンは好調で追い風もあるので、快適な飛行状態です。」知識や識別力を意識することなく、ただ流されるままに生きていても、行くべき方向に進んでいるとは限りません。私たちの目指す方向は、キリストに似た者と変えられることです。自分の子のために祈るなら、どんな圧力の下でも賢明な選択ができるようにと祈りましょう。大人でも、プレッシャーをかけられて良くない選択をしてしまうことがあります。神は、二番目で満足してはいけないと私たちに語られます。これらのみことばに目を留めると、パウロが成果を期待していることが分かります。どのような成果か見ていきましょう。

## 成果#1 純真で非難されるところのない生き方

ピリピ 1:10b

またあなたがたが、キリストの日には純真で非難されるところがなく、

パウロの懸念に注目すると、道徳的な識別力やクリスチャンとしての誠実さなどが含まれるようです。つまり、誰も見ていないときにどんな生き方をしているかということです。私たちは、クリスチャンとしてのモラルや価値観をしっかり握っておく必要があります。純真で非難されるところのない生き方は、神の聖霊によって導いていただき、神のみことばで支えられて可能になります。純真で非難されるところのない生き方という枠の中で、成熟したクリスチャンになりたいという目標を思い出してみましょう。純真で非難されるところのない生き方は、成長に伴う結果です。どのような面での成長かという、クリスチャンとしての品性や責任感などが挙げられます。例えば、教会を経済的に支えることについて考えてみま

しょう。「私の心のあるところに、私の宝もあるだろうか」と自問してみてください。良心が咎めますか。というのも、あなたの心が神とともにあるなら、あなたの宝もそこにあるはずだからです。純真で非難されるところのない生き方は、クリスチャンとしての成長を生みます。OICで行われるバイブルスタディーを活用していますか。SOAPプログラムなど、成長のための簡単な努力を惜しんでいませんか。私はクリスチャンとして皆さんのことを心にかけています。そして、パウロが望むことを私も望んでいます。それは、私たち皆が純真で非難されるところのない生き方をすることです。

ヘブル 5:13, 14

5:13 まだ乳ばかり飲んでいるような者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。  
5:14 しかし、堅い食物はおとなの物であって、経験によって良い物と悪い物とを見分ける感覚を訓練された人たちの物です。

神を称える生き方をしていないなら、神がその生き方を尊重してくださると思うのは間違いです。その自覚があるならなおさらです。私たちは堅い食物をいただいて、自分のすで知っていることを実践しているのでしょうか。そうすることで、私たち自身の最善を引き出す方法がわかるようになります。

## 成果#2 神に栄光を帰す義の実に満ちた生き方

ピリピ 1:11

1:11 イエス・キリストによって与えられる義の実に満たされている者となり、神の御栄えと誉れが現されますように。

これは、神との正しい関係から生まれる品性全体を指します。そこには、御霊の実も含まれます。ご存知の方も多いと思いますが、ここで御霊の実を改めて見てみましょう。

ガラテヤ 5:22-23

5:22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、5:23 柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。

自分自身に問いかけてみてください。周囲の人はあなたを見て自然と神のことを思い浮かべるのでしょうか。

## 結び

おわかりいただけただけでしょうか。パウロがここで記したことには順序があります。神との関係や信徒同士のつながりの中に満ちる真の愛は、私たちが優れたものへと導きます。優れたものによって、クリスチャンとしての誠実さへと導かれ、クリスチャンとしての誠実さによって、神を称える善行へと導かれます。今日初めに考えたことを思い出してください。もっと成熟したクリスチャンになりたいという思いです。今日の学びから、神がその方法を与えてくださっていることがわかります。パウロの祈りの内容は、神の命を人間のたましいに吹き込んでくれます。祈りは儀式ではなく、心の中で行われることです。私たちの心が敬虔さを備えているなら、私たちはこの世のようにではなく、クリスチャンらしい考え方をしましょう。この祈りの内容がなぜ大切なのでしょう。周囲の人、自分自身、教会、すべてにとっての最善を求めるなら、また、並の信仰から抜け出せるよう神に助けをいただきたいと願うなら、この祈りは私たち自身の祈りであるべきだからです。では祈りましょう。